

## 兵庫県将来構想研究会 第1回会議 (2019. 9. 12) 要旨

【議題】新ビジョンの策定方針 (新ビジョンの策定意義、機能、重視すべき視点等)

### (今あるものを変えるのがビジョンの役割)

- ・ 少子高齢化が進み、しんどいところに手を突っ込まないといけない段階に来ている。
- ・ 今あるものをどう変えるかを示すのがビジョンの役割。若者のチャンスを潰している既得権の構造をどう変えていくかを議論すべき。
- ・ バラマキ型の構造から脱却できるかどうか。地域全体を浮揚させる効率的な予算の配分や政策の重点化を進めるために、空間計画としてのビジョンを持つ必要がある。
- ・ 予算の配分も含め、自治体が抱える硬直化した負の領域をどう変えていくかが大きな課題。
- ・ 今後の地域政策では、縦割りの弊害を排し、パッケージとしてどう動かしていくかが重要。

### (強力な方向性を持つビジョンが必要)

- ・ 自由放任主義と介入主義の中間で、自由を認めつつ、ある方向に持っていこうとする「リバタリアン・パターンリズム」の政治哲学が注目を集めている。県のビジョンでも、介入と放任の中間で地域をマネジメントする視点が重要。
- ・ 「デモクラティック・ディクテータシップ」(民主的専制)がないと地域は動かない。地域を動かすためには、みんなで議論する場と、強力な方向性を持った存在の両方が必要。

### (状況を打開するために広域連携が必須)

- ・ 自治体同士で連携して広域圏を作ることで東京と対峙できるし、世界とも競争できる。もはや兵庫県単体で何かをする時代ではない。府県同士の連携、更には県内自治体間の連携も必須。

### (自営業の復活を)

- ・ 若者が雇用されずに生きていく場所がなかなかない。自営業が減って大資本中心の産業構造になっている中でいかに自営業を増やしていくのが課題。
- ・ 戦後の総中流社会は、自営業の多さが職業選択の安心感につながっていたが、今は何としても組織に属さないといけないという感覚になっている。フリーエージェントの敷居を下げたり、副業の組合せを容易にしたりして、職業選択の幅を広げる必要がある。
- ・ 農業を始める若者が増えているが、それだけでは食べていけないので、他の職と組み合わせて生計を立てている。こうした働き方に応じた政策が必要。

### (サービス業はキャリアパスが弱い)

- ・ サービス産業化が進み、賃金の低い層が増える。そこで大切なのはキャリアパスを作ること。サービス産業のキャリアパスを作り、学び直しの環境を整える必要がある。

### (人口減少で増える緑の空間)

- ・ 人口減少が進み、緑が増えていく。質の高い緑には文化的・歴史的な価値があり、住む人の幸せにも関係する。緑空間の質をどう高めていくかを考えないといけない。

### (難しいビジョンは要らない)

- ・ ビジョンが難しいものであると、子どもたちと乖離したものになってしまう。
- ・ ビジョンがどういうエピソードを人々に与えられるかを考えることが大切だ。

### (国の言うことを信用しない)

- ・ 東京一極集中が一向に是正されない。こういう状況でも国を信用し続けるのか。国を信用しない、国の方を向かない、東京の方を向かないという決意があっても尖っていてよいと思う。
- ・ 国も、がんじがらめになっている。広い視野で正しい意思決定ができると思わない方がよい。
- ・ 国がゲートキーパー化し、地方自治体が本来の役割を果たすように進化することを望む。

### (地域の自立があるべき姿)

- ・ 地域の自立があるべき姿。地域に当事者意識を持つ若者が、生業の中で自己実現できる社会への道筋をビジョンで描けないか。

### (費用対効果に代わる社会基盤整備の尺度が必要)

- ・ 東京の道路だとB/Cの事業評価で高い値が出て作ろうとなるが、地方の道路で同じ評価すると非常に低い値しか出ない。そうした不公平がある中で、地域同士で競争しろといっても無理がある。地域や世界と競争するための社会基盤は必要であり、その整備は粛々と進めるべき。

### (リスクを取っても大丈夫と安心できる社会)

- ・ 失敗した人を助けることが大切。そうした社会になれば、安心してチャレンジできる。
- ・ ベースとなる安心感があるとリスクが取れる。リスクを取っても何とかなる、チャレンジしても大丈夫と感じられる社会を作っていく必要がある。
- ・ 子どもが社会で生きていくことに安心できるようにしていく必要がある。

### (人口減少=衰退のステレオタイプを壊せ)

- ・ ステレオタイプだと人口が減少して地方が衰退するという暗い話ばかりになるが、データを見ると意外とそうでもない。明るい未来を描くためにも、ステレオタイプは壊さないといけない。

### (孤立しがちな人に目を向ける)

- ・ Iターンや転勤で転居してきた人はネットワークから切れている。交通手段の不便なところではあれば、なお一層孤立しがち。そういった人たちのネットワークづくりが課題。

### (新しい農業像、農村像)

- ・ 国は農業の大規模化を進めているが、小さな農業や兼業、家族経営とのバランスをどう取るのかを今一度考える必要がある。大きな土地を前提にした産業政策としての捉え方だけでなく、県として、どういった農業像、農村像を描くのが課題。
- ・ 行政は最末端の機関としてコミュニティを使い、その維持に努めてきたが、コミュニティと個人の関係が変わり、コミュニティが弱まる中、個人対応で政策を考えることが重要になる。
- ・ コミュニティを維持するのに最適な規模の議論もあった方がよい。

### (人は何によって動くのか)

- ・ 地域創生で本当に人が兵庫に戻ってくると、皆さんどれだけ信じているのか。
- ・ 人は決して便利なところにばかり動いているわけではなく、まだらに動いている。何によって人は住まいを選ぶのかという話も必要。
- ・ 「定住」を議論することに意味があるのか。住民票をどう考えるのかという話も必要。

(以上)